

住職に化け夜な夜な酒宴を開いた 華蔵院の怪猫伝説

—— ひたちなか市栄町・華蔵院



現代日本では今やペットの数が人間の子どもの数を超えており、人々の生活にペットは欠かせない存在になっています。癒しを与えてくれるペットですが、時にはちよつとしたいたずらをやらかしてしまふものもいて、古くから多くの伝説が残されています。

室町時代、応永22年（一四一五年）に開かれたという、ひたちなか市の那珂湊地区にある華蔵院には怪猫の話が現代にも伝えられています。

昔、那珂湊の商人が千葉県の小金の原という原っぱを夜、通りかかったところ、草むらの中で騒々しい音が聞こえました。その商人がそつと覗くと猫たちが歌え踊れの酒宴を開いていました。その中の猫の一匹が「今日は華蔵院が来ないのは残念」と言っていました。

地元の華蔵院という名前を聞いた商人がその結果を見届けようとしていると、やがて遅れて袈裟姿の猫が現れ、酒宴に参加しました。その場は一層盛り上がったそうです。

数日後、那珂湊に戻った商人が華蔵院の住職にこのことを話すと、その話に耳をそばだてていた傍らの古猫がそつとその場を離れてしまいました。住職が不思議に思い袈裟を見てみると、裏側には古猫の毛がびつしりと着いていたのです。

華蔵院のこの古猫はそれ以来、二度と姿を現さなかったそうですが、華蔵院では今も猫に關したさまざまな造形を見ることが出来ます。

ひたちなか海浜鉄道湊線の那珂湊駅には、有名な猫駅長の「おさむ」や「ミニさむ」などの人気キャラクターも存在しています。

ローカル線に乗って猫を訪ね歩く旅も面白いものです。昔ながらの湊町の面影を訪ねながら華蔵院ではぜひ、猫の姿を探してみたいかがでしょうか。

〈参考〉茨城の伝説「ほか



【アクセス】ひたちなか海浜鉄道湊線那珂湊駅から徒歩約10分
所在地：ひたちなか市栄町1-1-33

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>